

商店街名：春日井市商店街連合会（春日井駅前商店会、鳥居松商店街振興組合、下街道発展会、鳥居松広小路商店街振興組合、東野商店街振興組合、篠木発展会、繁田発展会、高蔵寺商店街振興組合、いちょう並木通り発展会、イオン同友店会、味美商店街振興組合、勝川駅前通商店街振興組合、勝川駅東商店街振興組合、勝川駅西発展会）

【春日井市、平成 29 年度指定】

## 1 活性化モデル商店街の概要

### ●キャッチフレーズ

商店街は公共であり文化である

### ◎商店街の将来ビジョン

#### 【現状と課題】

- ・市内各地区が独自に発展しているため、市全体の核となる商店街が形成されていない。また、大型店の出店や後継者不足から既存商店街において空き店舗が増加してきている。

#### 【対策】

- ・商店街の組織力を活かした地域及び商業を活性化させる事業を展開させていくとともに、空き店舗の解消やまちづくりに対する商店街組織内の意識を向上させていく。

### ◎具体的に取り組む事業内容

#### ○商店街まちゼミ事業（29 年度～32 年度）

“その道のプロ”である商店主が、ちょっと暮らしに役立つ情報や知識をゼミナール形式で地域消費者に教授する。

#### ○まちの担い手養成塾事業（29 年度～32 年度）

自店の店舗経営やマーケティングを学び、商店街の活性化プランづくりに取り組むことで、個店や商店街の課題を解決し、個店の繁栄や商店街を含む地域全体の活性化に取り組む「次世代リーダー」を育成するため、商店街の若手後継者等を対象として開催する。

#### ○アトム通貨事業（29 年度～32 年度）

「環境」「地域」「国際」「教育」をキーワードとする地域通貨である“アトム通貨”を、理念に合致するイベントやプロジェクトを実施する団体などに配布する。

#### ○防犯・防災事業（29 年度～32 年度）

地域住民が災難に遭いそうになったときに気軽に駆け込めるよう、商店街の店舗を防犯駆け込みの店として登録する。

## 2 活性化モデル商店街の実績・成果等

### ◎商店街の将来ビジョンの実績

まちゼミを継続開催することで地域住民に個店の魅力を知ってもらうことができた。後継者育成に関してはまちの担い手養成塾を開催。塾生が商連執行部会の役員を任されるようになるなど一定の効果があつた。地域通貨についてはアトム通貨を推進してきたが、春日井ならでの地域電子通貨を企画し様々な情報を収集しまちの担い手養成塾のテーマとしてとりあげるなど積極的に活動をしている。

### ◎事業実績

#### ○商店街まちゼミ事業（H29年度～R2年度）

“その道のプロ”である商店主が、ちょっと暮らしに役立つ情報や知識をゼミナール形式で地域消費者に教授した。地域消費者のニーズへの高い情報を提供することで、個店の魅力を知ってもらった。平成29年度は、事業の継続には欠かせない商店主の参加を促すため、まちゼミ参加店に向けたセミナーを実施した。

#### ○まちの担い手養成塾事業（H29年度～R2年度）

自店の店舗経営やマーケティングを学び、商店街の活性化プランづくり等に取り組むことで、個店や商店街の課題を解決し、個店の繁栄や商店街を含む地域全体の活性化に取り組む「次世代リーダー」を育成するため、商店街の若手後継者等を対象として、養成塾を開催するものである。養成塾では、全国で地域の活性化を実践している人を講師として招き、講義、ワークショップ、視察、報告会等を実施した。平成29年度は、特に、商店街の活性化を考える前提として、個店の繁栄を考え抜くことで、塾生の商店街や個店繁栄の意識向上が図られた。

#### ○アトム通貨事業（H29年度～R2年度）

アトム通貨とは「環境」「地域」「国際」「教育」をキーワードとし、感謝の気持ちを伝えるツールとして発行する地域通貨である。市内において、アトム通貨の理念に合致しているイベント（単発の事業）やプロジェクト（比較的長期に及ぶ事業）を実施する団体などの申請に対し、配布した。平成29年度は、春日井市商店街連合会が開催する講演会において、アトム通貨をテーマとし、周知を図った。

#### ○防犯・防災事業（H29年度～R2年度）

地域住民がいじめ、ゆすり、たかり、暴力など、被害に遭いそうになった時、近くの店舗に気軽にかけこめるように、商店街の店舗を防犯かけ込みの店として登録し、安心・安全な街づくりを図った。平成29年度からの新規事業であり、春日井市商店街連合会の会員約500事業者にステッカー等周知用品、マニュアルを配布した。

### ◎事業の効果

まちの担い手養成塾の塾生2名が令和2年度より商店街連合会の役員になり、地域電子通貨やECモールなど新しい事業の勉強会を開くなど積極的な活動が行われている。会員数は個店の高齢化による閉店等の影響により減少してしまった年もあるが、各単組における事業数は、令和元年度まで毎年徐々に増加してきており、商店街の活動が活性化した。

### ◎新型コロナウイルス感染症を踏まえて取組んだこと

個店での開催をメインに行ってきたまちゼミにおいてオンラインでの小規模開催を8月に行

い、2月には実店舗とオンラインを併用しての開催を行うに至った。また、夏祭りが行えない中でも、地元PTAと連携し店舗にハロウィン飾りを行う商店街があるほか、交通標語を小学生から募集し表彰を行う商店街があるなど、各単組が新しい取り組みを行い地域住民とのつながりを強化するよう取り組んでいる。

### ◎その他の成果

勝川駅前通商店街は平成15年より弘法市を毎月開催しており、地元住民との連携強化に成功していることから、令和2年度にはばたく商店街30選に推薦した。また、勝川駅前通商店街、勝川駅前東商店街及び勝川駅前西発展会は、令和3年度に開店予定の大規模商業施設と連携し、デリバリー・予約アプリの実証実験にも協力し商店街の活性化に向けて活動している。



(まちの担い手養成塾)